

iPadを使った授業実践報告

(佐賀県立ろう学校)



学校玄関前



iPad(壁紙は利用させていただきました)



佐賀県立ろう学校 教諭 宮原 昌佳

学校紹介

- 生徒数

	男子	女子	計
幼稚部	3	0	3
小学部	4	2	6
中学部	6	4	10
高等部	7	3	10



幼稚部

- 各学部の授業風景



小学部



中学部



高等部

導入した有料アプリケーション

アプリ名	F078	F079	F080	F081
ICOON diccionario universal ilustrado	×	◎	×	×
Lotus	◎	×	×	×
Noise Level	◎	×	×	×
Puffin	◎	×	×	×
Wind Toys	◎	×	×	×
漢字練習	◎	×	×	×
こえほん 大きなカブ	◎	◎	×	×
モジルート(カタカナ)	◎	◎	×	×
モジルート(ひらがな)	◎	◎	×	×
Muscle3D	◎	×	×	×
時計の学習	◎	×	×	×
豊平文庫	◎	◎	◎	◎
UZU	◎	×	×	×
SoundTouch	◎	◎	×	×
運転免許問題集	×	×	◎	◎

アプリ名	F078	F079	F080	F081
アニメマナーレッスン ビジネスシーン編	×	×	×	◎
日本のコウチュウ	×	◎	×	×
keynote	×	×	◎	×
熱中算数2年生	×	×	◎	×
元素図鑑	×	×	◎	×
季節の野草・山草図鑑	◎	×	×	×
角川日本史辞典	×	×	×	◎
HistoryMaps	×	×	×	◎
StarWalk	◎	×	◎	×
久我先生のもじ練習	◎	◎	×	×
漢字練習	×	◎	◎	◎
GoodReader	◎	×	×	×
かなもじ	◎	◎	×	×
版画(Hanga) 彫刻刀	◎	×	×	×
GoodReader	×	◎	◎	◎

◎ 導入した有料アプリケーション
 ◎ よく使われたアプリケーション

iPadの活用(幼稚部)

- ・ 幼稚部では、「ことば」や「文字」、「数」の学習にiPadを取り入れた。
- ・ 「モジルート」「久我弘美先生のひらがなもじれんしゅうちょう」「かなもじ」「こえほん～電子絵本～」 「REAL ANIMALS HD」等のアプリケーションを活用した。



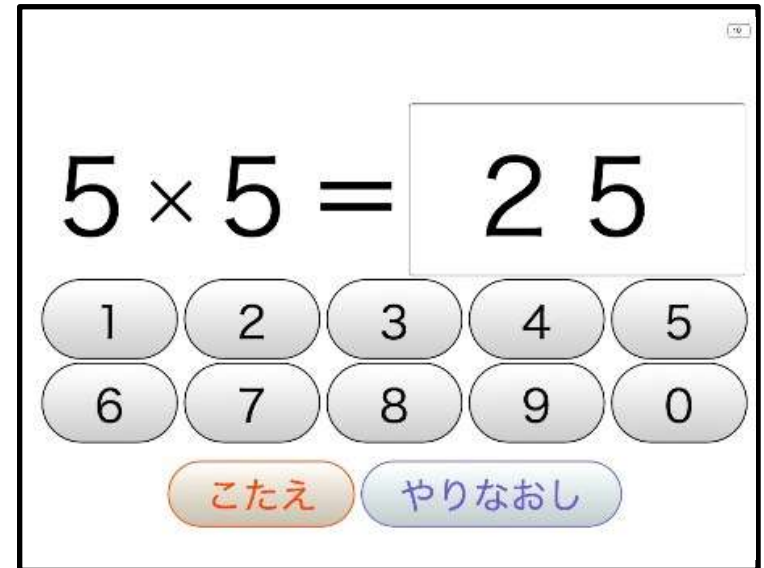
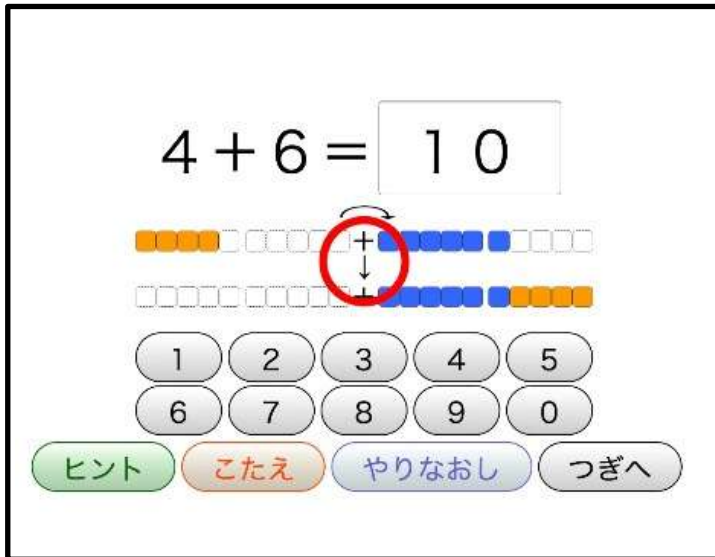
iPadの活用(小学部)

- ・ 小学部高学年では、インターネットを使った調べ学習等に活用された。
- ・ 小学部低学年では、児童の実態に合うアプリケーションが見つからず、ICT支援員さんの協力を得ながら、担任の 希望に合う教材をHTMLを使って作成し活用した。

○ iPadを使った自作の教材 ・ ことば ・ 助詞の問題 ・ 色の問題 ・ くりさがりの引き算

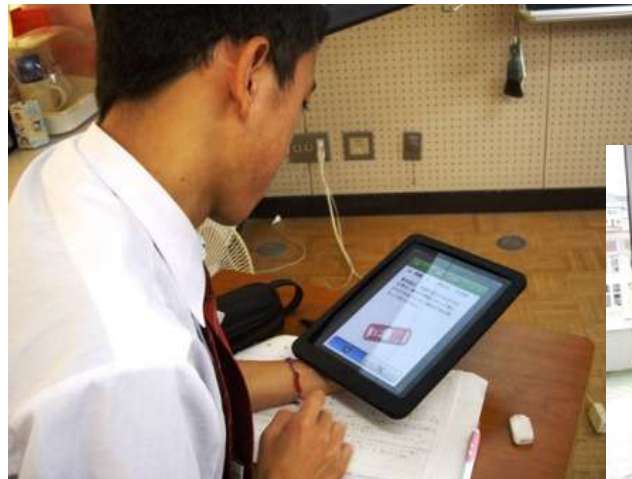
・ くりあがりのある足し算

・ かけ算九九練習



iPadの活用(中学部・高等部)

- ・ 教科学習の中で、インターネットで検索したり、辞典や図鑑を使って調べたり、地理の学習にマップやGoogle earthを利用した。
- ・ 朝自習の時間を使った個別の学習に、漢字検定の「漢字練習」「漢検何級」等のアプリケーションを利用した。
- ・ 卒業前に自動車免許取得のための学習に「運転免許問題集」を利用した。
- ・ 「総合的な学習の時間」や「自立」の時間に、インターネットを使った調べ学習に利用した。



iPad活用への経過

○ iPad導入の時期

- ・ 先生方にiPadを使ったことがある方はほとんどいなかったもので、使おうとする先生は出てこなかった。
- ・ 先生方に関心を持ってもらおうと各学部別に研修会を開いた。iPadの操作を体験した先生方はとっても興味を持たれ、それ以降、使ってみようとする先生が増えてきた。

○ 先生方がiPadを使えるようになってきた

- ・ 先生方は、アプリケーションを楽しく体験できたが、生徒や生徒の学習に合ったアプリケーションを見つけることは困難だった。
- ・ いろいろと探していくうちに、アプリケーション探しはだんだんと少なくなっていった。
- ・ 中学部・高等部では教科によっては、辞書や図鑑等のアプリケーションを利用されることが多くなる。他に、「計算の練習」や「漢字検定」の個別の学習(自習)に利用された。

○ アプリケーションに頼らず、iPadをさらに使いたい(現在)

- ・ その後一部の先生方が、何とか自作の教材が作れないかと考えるようになった。
- ・ HTMLで作られたアプリケーションを参考に内容を変更して、GoodReaderを使って動かす、自作の教材作りに挑戦するようになる。
- ・ HTMLについての研修会を開くことになる。

テレビ会議システムの活用

- ・ テレビ会議システムを使った授業

聴覚特別支援学校では児童生徒数が少なく、小学部では1人の学級が多くなっている。そのために、同じ学年の友達との意見交換等ができないことが問題となり、学級の少人数化を補うために近隣の聴覚特別支援学校と協力しテレビ会議システムを活用した交流教育や授業について研究を進めることとなった。



将来、iPad2のテレビ電話の機能を使った交流も加われば、交流の形態が広がり、より可能性が見いだされると考えられる。

教師や生徒の状況と今後の課題

教師の状況

- ・ iPadの導入で、多くの先生方がその可能性に驚き、興味を持つことができた。
- ・ アプリケーションを使っていくうちに、児童の実態に応じた画面や操作方法の工夫が生まれ、ICT支援員さんと協力してアプリケーションの作成を手がけるようになった。
- ・ 現在、本校にはICT支援員さんが2名配置され、使用方法の説明から教材作成までの支援をいただいている。支援員さんの知識や能力と、協力が大変大きな力となっている。

生徒の状況

- ・ 操作方法を教える時間はほとんど必要としなかった。幼稚部から高等部まで幅広い内容で利用できた。
- ・ 生徒はiPadを使って学習できることにたいへん興味を持っている。学習に集中できる継続時間は、iPadを使った方が普通の学習の継続時間に比べてはるかに長くなっていた。
- ・ 九九や漢字等を覚える学習で、繰り返しの練習を続けることに抵抗を感じる生徒は多かったが、アプリケーションを使うことで、それぞれの学力に応じた練習を楽しんで継続できた。
- ・ 学習のごほうびとしてiPadを使えるということが、学習意欲の引き出しに効果があった。

今後の課題

- ・ 授業で使えるアプリケーションがたくさん作られるようになり、その中から必要なものが選択できるようになれば、もっともっとiPadを使った授業が増やせるし、楽しい授業展開を増やせると考えられる。
- ・ 自作教材を作るのは、難しくかなりの時間が必要である。しかし、生徒の実態に合わせようとするとしても教材を作る必要性を感じる。その時、支援ソフトやICT支援員さんの支援はとても有効である。

◎ 今回、あきちゃんの魔法のふでばこプロジェクトに参加させていただき、iPadを使った実践研究の機会を与えていただき、関係機関や関係者の方々に大変感謝いたしております。また、フォーラムを通していろいろなご意見等を提示していただけたことは、問題解決の大きな力になりました。多くの先生方にお礼申し上げます。